

Rotary



世界に希望を生み出そう

CREATE HOPE in the WORLD



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 石川 元信

幹 事 谷田部 修

会報・雑誌委員長 田崎 信孝

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3025号 2023年11月28日(晴れ) 第21回例会 会員数105名

## ハイブリッド例会

点 鐘 石川(元)会長  
司 会 副SAA 谷田部(勝)会員

- ◇ロータリーソング「それでこそロータリー」
- ◇本日のランチ 小付 揚物 ビーフシチュー野菜  
添え 香の物 汁 御飯 デザート



ビジター紹介 小林(正)副会長

- ◇来訪ロータリアン  
4名(1クラブ) 累計26,640名  
宇都宮陽北RC  
黒崎 行雄 様 荻原 克則 様  
斎藤 典良 様 石川 貴之 様

- ◇卓話講師  
第76代宇都宮市議会 議長 馬上 剛 様



会長挨拶 石川(元)会長

皆様、こんにちは。馬上議長様、今日は卓話をよろしく願いいたします。またIMのキャラバンで宇都宮陽北RCの皆様にお越しいただきありがとうございます。この後のご案内、よろしくお願いいたします。

さて、やっと、私、新米を食べました。お米と言えば、八十八日のいろいろな手間がかかって天寿の恵みをいただいて頂く。昔は一日、二合から三合食べ、完全食に近いということで、お米を食べていれば元気に仕事ができると言われています。11月23日は勤労感謝の日と今はなっていますが、23日は新嘗祭ということであります。神様に五穀豊穡のご報告をしてお供えをする。天地の恵みに感謝をしてやっと食べられた、ということです。今は新嘗祭や天皇陛下が変わった時の大嘗祭など、日本の古来のものがちょっと忘れられているのかなと思っています。先日19日、二荒山バンバ清

掃ということでお宮の清掃をさせていただきました。その時に宮司さんが「清掃によって自分の心のお祓いをする」と言われました。お寺でもよく「掃除をするというのは心の塵を祓う」と言います。たまたま、ということですが、新嘗祭の前にお宮さんの清掃ができたのはよかった、と思って感謝をしているしだいであります。これからやっとなんと、神様の前で新米を食べることが出来ると思っております。太らないように気を付けていきたいと思っております。いよいよ日々寒くなってまいります。皆様もどうぞお体に十分気を付けて、よい年を越すための準備をしていただきたいと思っております。

- ◇2023~24年度第3グループIMのご案内  
宇都宮陽北RC 荻原克則様  
開催日:2024(令和6年)年2月7日(水)  
ベルヴィ宇都宮にて。  
ホストクラブ:宇都宮陽北RC。

※3部構成

- 第1部 基調講演「気候危機と、脱酸素を通じた地域発展の可能性」講師 宇都宮大学国際学部教授 高橋若菜様
- 第2部 IMテーマ「アフターコロナの奉仕活動」各クラブ会長よりスピーチ
- 第3部 懇親会・ローターアクト代表スピーチ



幹事報告 谷田部(修)幹事

- ◇クラブ年次総会の「選挙」に関するお知らせ  
2023~24年度のクラブ年次総会をクラブ細則第5条第1節の年次総会の規定により12月5日に開催します。クラブ年次総会におきましては、クラブ細則の第3条第1節の規定により、役員である会長(次々年度)、副会長、幹事、会計、SAAおよび8名の理事の選挙を行います。ま

た、クラブ細則第5条第1節（b）による今年度前期の一般会計の収入と支出の中間報告の発表があります。

- ◇12月5日例会終了後、ホテルニューイタヤにて石川年度第6回定例理事会開催。
- ◇宇都宮東RC夫人の会からピアノリサイタルのご案内 12月5日STUDIO P5にて開催。
- ◇鳳山西區扶輪社の蔡会長からコーヒーバック、陳幹事からお守りのお土産を全員に頂きました。来週例会までに順次お配り致します。
- ◇佐野RCから地区大会の「さのみやげ麺」（佐野ラーメン）が届いております。お持ち帰りを。
- ◇レターBOXにR財団寄付確定申告用の領収書配布。



### 委員会報告

- ◇スマイルボックス委員会 菊地（正）委員長  
加藤勝朗会員

明後日30日日本曜日から再来週火曜日まで東武デパート5階マロニエテラスで坂本富男拓版画展を開催します。是非ご高覧下さい。

石川元信会長

お宮様の清掃、心が洗われました。感謝です。

- ◇社会奉仕委員会 手塚委員長

去る11月19日（日）、会員の多くの皆様にご協力いただき、無事、バンバ広場の清掃奉仕活動を行うことが出来ました。ありがとうございました。



### 卓話

「人口減少時代における地方自治の考察」



宇都宮市議会 議長 馬上 剛 様  
皆さん、こんにちは。今日は、地方自治の考察

を、2050年代の日本をテーマに少し考えていこうということで、このタイトルをつけさせていただきました。私は昭和48年（1973年）1月生まれでございます。ご縁があつて県議員や国家議員の秘書を10年務めさせていただき、6年間民間に席を置き、38歳で立候補、初当選をさせていただきました。家族を含め後援会の皆様にご指示、ご指導をいただき、この度4月の統一地方選挙で4選を果たし、議長に就任させていただきましたところでございます。宇都宮東RCの皆様にも、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、今日は資料を持って参りましたが、この資料を説明する前に、少しだけ、宇都宮の話を見せていただこうと思います。LRT、おかげさまで順調に推移をしております。構想から30年間経ちました。渡辺文雄さんという時の知事が、新都市交通システムを提唱されてからおよそ30年かかりました。その後、福田富一さんが知事になり、佐藤栄一市長が誕生しました。LRTの賛否両論いろいろありましたが、開業を無事に迎えて、予想をはるかに超える方に利用させていただいております。一番良かったのは、沿線の人口がすでに6%増えたということ、そして地価も5%位上昇を見せています。この勢いを借りて、駅の西側に向けて延伸を進めていきたい、というのが現在の宇都宮の状況です。

宇都宮も2050年、または2100年、このまま51万人の人口を維持することは残念ながら出来ません。何もしないでいると10万人位減ると推定されています。ここをなんとか、1割減、45～46万人位にくいとどめるために、今、LRT等々、様々な政策を打っているところでございます。宇都宮はなんとしても栃木県の経済のけん引役として、これからも持続的な発展を続けていかなければなりません。これからの地方議会は、様々な自治体の方向性を決める、非常に重要な立ち位置に立っています。

そこで、この地図（資料）をご覧ください。2050年の人口の増減予測ということで、緑のところ、濃いブルーのところは75%～100%、人がいなくなると推定されているところです。わずか25年後には、こういう日本になっているという現状があります。問題なのは、今現在こういう推定があるにもかかわらず、1,700を超える自治体があるということでございます。約800の市と900の町村があります。この人口減少に立ち向かっていくために、それぞれの市、町、村がどうすれば生き残れるかということ、今すでに考えておかないと、住民自治が成り立たなくなる、ということが一番の課題なのでは

ないかと思えます。実は1,700を超える自治体の中で、5万人以下の自治体が7割です。一番多い市は横浜で378万人。一番少ない市は北海道の歌志内市で2,700人です。横浜も歌志内も一つの市ということを考えますと、町や村はどうなっているんだ、ということが透けて見えるのではないかと思います。ちなみに人口が一番少ない村は、東京都の青ヶ島村で総人口169人です。いろいろと打つ手を打っても、ほとんどの自治体で住民自治が届かなくなってきました。今ある1,700の自治体というものをもう一度見直す、政治の在り方、地方自治体の在り方をしっかり考えて、今から議論していく必要があるのではないかと考えております。

議員報酬ですが、横浜と歌志内市の議員報酬は4倍もの開きがありますが、20万円少しの報酬を貰って、税金等を引かれると手取りが新卒の大学生の初任給位ではないか、という議員が沢山います。4年に1回選挙をやりながら子育てができるかという、まったくできない状況になっています。なり手がなくなるような仕組みになっているわけです。様々な地方自治の在り方を今後考えて行くときに、やはり、一定の規模に自治体が合併をしていくこと、これが一番重要なのではないかと思います。また、広域連合議会というのが制度的にはあります。

今現在、非常に惰性感のある市、町、村の政治というのがありまして、なり手がいない、定数が割れているにもかかわらず選挙が行われる、というものです。また、高齢化も進んでいます。20万円そこそこしか報酬が貰えない場合は、当然ながら兼業していく必要があります。兼業しながら若い人が政治を志すかという、なかなか難しい。家族の理解も得られないということで、どういう方がタイプの多いかといいますと、町や村役場を引退した方、学校の先生を引退した方、警察官を引退した方等です。そういうことで、非常に職種が偏ってしまう、議会が住民全員の意識というのをなかなか掴むことが出来ない、つまりは地方自治が硬直化していくわけでございます。

地方議会は二元代表制ということで、首長も議員も選挙で選ばれます。例えば、宇都宮市長が「こういう仕事がしたい」という時に、「現場の声と乖離があるから肉付けをしよう、間引きをしよう」というのが議会の役割になりますが、田舎にいけばいくほど、なり手不足と高齢化で形骸化し

てしまっている現状があります。議会が形骸化してしまうと、市長、町長、村長が強くなり、もし、市長、町長、村長が誤った方向に住民自治の舵を切ってしまうと、税金が本当の住民サービス、福祉のために使われない可能性があります。非常に危険を感じているところです。是非、これから政治を志す若い方を、経済をけん引する皆様にしっかりと支えていただき、なんとか政治家を一人二人と育てていただきたい、というのが私のお願いでございます。

地方自治は多様ではありますが、現実問題として比較的人口規模が大きな自治体の議員でなければ专业化というのは出来ません。ほとんどの地方議員が兼業で生活しているというのが、なり手不足の一因であります。議員の報酬だけあげるということは小規模自治体ではできませんので、小規模自治体の在り方をしっかりと考えて、これから町とか村をどんどん再編していく、広域議会というものを取り入れる、或いは令和の大合併ではありませんが、10万人とか20万人位の規模の自治体にしていく。そうしたことで議員の質も行政の質も必ず上がりますし、相対的に議員の数も減ります。その代わり、しっかりと働く議員にはしっかりと報酬を出す。こうしたことを、是非、経済界の皆様からも声を大にしていきたいと思っています。

もうひとつ言いますと、小規模自治体は、議員の質を高める議会の事務局のサポートを、なかなか受けられません。議員の力がどんどん衰退的に落ちて、町長や村長の力が強くなっていく傾向がありますので、なんとか歯止めをかけていかなければならないと思っています。首長と議会が同じ住民代表として対峙する性格を持つ二元代表制、というのが地方自治の根幹でございます。議員として議会活動に専念できる環境づくりというのも、ある側面では必要かと僕は考えています。繰り返しになりますが、皆様方には経済界の立場から、これからの地方自治をしっかりと考えないと2050年には自治体そのものが立ち行かなくなる、今から議論しなければならない、ということ、頭に入れておいていただければ幸いです。また、前向きに考えている議員がいれば、そういう議員を助けていただきたいと思っています。皆様、経済界の立場でいろいろな議員に声をかけ、育てていただけることをお願い申し上げます。